

VI 中東・アフリカ

中東・北アフリカ地域概観

■ 2011 年の経済成長は減速

IMF によると、2011 年の中東・北アフリカ(IMF が定義する MENA(注 1))の実質 GDP 成長率は 3.5%と、2010 年(4.9%)から減速した。産油国は、エネルギー価格の上昇で輸出や対内投資が増加したことなどから、カタール(18.8%)、イラク(9.9%)、クウェート(8.2%)、サウジアラビア(6.8%)などの経済が好調で、全体で 4.0%の成長となった。ただし、内戦が発生し長期政権が崩壊したリビアは、原油の生産・輸出が一時停止したことでマイナス 61.0%の成長となった。非産油国は、2011 年に長期政権が崩壊したエジプト(1.8%)、チュニジア(0.8%減)、イエメン(10.5%減)などが低調で、全体では 2.0%の低成長だった。大規模デモが発生したものの、国王主導で迅速に改革を進め、王政を維持したモロッコ(4.3%)は堅調に伸びた。

IMF は 2012 年 7 月の予測で、MENA の 2012 年の実質 GDP 成長率を 5.5%と発表、4 月に予測した 4.2%から 1.3 ポイント引き上げた。リビア経済の回復、産油国の石油生産量の増加と内需の拡大を、成長の要因とした。

チュニジア、エジプト、リビア、イエメンなど長期政権が崩壊し民主化に向けたプロセスが始動した国がある一方で、シリアは 2012 年 7 月時点で、内戦の様相を呈しており、また核開発をめぐる国際社会とイランの溝は埋まっておらず、MENA の政情不安は 2012 年も続いている。

■ MENA の貿易は輸出入ともに増加

2011 年の MENA の貿易額を IMF 統計でみると、輸出が前年比 30.8%増の 1 兆 2,383 億 4,000 万ドル、輸入が 20.2%増の 8,484 億 7,900 万ドルとなった。

主要相手国側の統計でみると、まず EU27 の 2011 年の対 MENA 輸出は 2,221 億 3,700 万ドル(9.1%増)、輸入は 2,139 億 6,700 万ドル(18.7%増)だった。主な輸出品目は、機械類および電気機器など。輸出先はアラブ首長国連邦(UAE)が最大で、次いでサウジアラビア、アルジェリアの順となった。主な輸入品目は、サウジアラビア、アルジェリア、イラク、カタールなどからの鉱物性燃料だった。

中国は、輸出が 925 億 3,600 万ドル(21.9%増)、輸入が 1,482 億 4,700 万ドル(50.2%増)だった。主な輸出品目は、機械類および電気機器など。輸出先は UAE が最

大で、次いでサウジアラビア、イランの順となった。主な輸入品目は、サウジアラビア、イラク、オマーン、イラクなどからの鉱物性燃料だった。

米国は、輸出が 564 億 300 万ドル(15.2%増)、輸入が 994 億 1,700 万ドル(35.2%増)だった。輸出上位国への主な輸出品目は、航空機(UAE)、輸送機器(サウジアラビア)、穀物(エジプト)などだった。主要輸入品目は、サウジアラビア、イラク、アルジェリアなどからの鉱物性燃料だった。

韓国は、輸出が 311 億 2,700 万ドル(13.9%増)、輸入が 1,185 億 700 万ドル(48.1%増)だった。輸出上位国への主な輸出品目は、電気機器(UAE、イラク)、輸送機器(サウジアラビア)、鉄鋼(イラク)などだった。主要輸入品目は、サウジアラビア、カタール、クウェート、UAE、イラクなどからの鉱物性燃料だった。

■ 日本たばこ産業がスーダン企業を買収

国連貿易開発会議(UNCTAD)によると、北アフリカと西アジア諸国(注 2)の 2011 年の対内直接投資(ネット、フロー)は、前年比 23.7%減の 563 億 6,800 万ドルだった。最大の投資受け入れ国は、サウジアラビア(164 億ドル、41.6%減)で、2 位のトルコ(158 億 7,600 万ドル、75.7%増)とともに 100 億ドルを超えた。近年経済が好調なカタールは、8,700 万ドルの引き揚げ超過だった。

対外直接投資(ネット、フロー)は、前年比 27.3%増の 271 億 600 万ドルで、クウェート(87 億 1,100 万ドル、72.0%増)、カタール(60 億 2,700 万ドル、約 3 倍)、サウジアラビア(34 億 4,200 万ドル、11.9%減)の 3 カ国で 7 割弱を占めた。

MENA の 2011 年の対内クロスボーダー M&A 件数は、141 件だった(トムソン・ロイター)。国別では、UAE(40 件)、サウジアラビア(25 件)、エジプト(18 件)、ヨルダン(15 件)、モロッコ(11 件)が 10 件を超えた。大型案件は資源、通信などの分野でみられた。日本企業では、2011 年 11 月に日本たばこ産業によるスーダンのたばこ会社の買収(4 億 5,000 万ドル)があった。

対外クロスボーダー M&A 件数は、176 件だった(同)。国別では、米国(20 件)、サウジアラビア(12 件)、英国(11 件)が 10 件を超えた。大型案件は電力、資源、通信などの分野でみられた。

■ 日本の貿易赤字が拡大

日本の財務省「貿易統計(通関ベース)」をドル換算すると、2011年の日本の対 MENA 貿易は、輸出が前年比 7.0%減の 248 億 6,400 万ドル、輸入が 36.3%増の 1,633 億 8,200 万ドルで、貿易赤字は前年の 931 億 110 万ドルから、1,385 億 1,800 万ドルに拡大した。

主な輸出品目は、輸送機器と一般機械で、国別では、UAE(1.9%増、74 億 4,100 万ドル)、サウジアラビア(0.4%増、64 億 8,700 万ドル)、の 2 カ国で過半を占めた。輸入の主要品目は、原油や液化天然ガスなどの鉱物性燃料。国別ではサウジアラビア(40.9%増、503 億 9,000 万ドル)、UAE(46.4%増、427 億 1,600 万ドル)、カタール(39.0%増、300 億 5,700 万ドル)、クウェート(27.8%増、130 億 9,800 万ドル)、イラン(15.3%増、128 億 3,100 万ドル)が上位で、これら上位 5 カ国からの輸入は、MENA からの輸入の約 9 割を占めた。

2011 年の日本の中東(注 3)への直接投資(財務省発表の国際収支ベースをドル換算、ネット、フロー)は 7 億 1,600 万ドルで、前年の 3 億 4,800 万ドルの引き揚げ超過から一転して増加した。バーレーン(鉄・非鉄・金属など)、UAE(卸売・小売業など)、サウジアラビア(木材・パルプなど)、カタール(建設業など)で 9 割以上を占めた。中東からの直接投資(同)は 1 億 4,200 万ドルで、イスラエル(化学・医薬、鉄・非鉄・金属、電気機械器具)が最大だった。

(注 1)アルジェリア、バーレーン、ジブチ、エジプト、イラン、イラク、ヨルダン、クウェート、レバノン、リビア、モーリタニア、モロッコ、オマーン、カタール、サウジアラビア、スーダン、シリア、チュニジア、アラブ首長国連邦、イエメン。

(注 2) (注 1)からジブチ、イラン、モーリタニアを除き、トルコとパレスチナを追加。

(注 3) サウジアラビア、アラブ首長国連邦、イラン、バーレーン、クウェート、カタール、オマーン、イスラエル、ヨルダン、エジプト。

サブサハラ(サハラ砂漠以南)・アフリカ地域概観

■ 産油国中心に高い伸び、欧州債務危機の影響は限定的

IMF によると、2011 年のサブサハラ・アフリカ(以下、サブサハラ)の実質 GDP 成長率は 5.1%と、2010 年(5.3%)に続き高い伸びを示した。資源価格の上昇に伴い、鉱業分野への対内投資や同部門の輸出が増加し、成長を牽引した。欧州債務危機の影響は、南アフリカ共和国(以下、南ア)を除いて、軽微なものにとどまった。欧州金融市場との関係が限定的であること、貿易相手先が多角化し欧

州への依存度が以前と比べて低下していることが背景にある。

国別の成長率をみると、産油国ではナイジェリア(7.2%)や赤道ギニア(7.1%)など、低所得国ではエチオピア(7.5%)やモザンビーク(7.1%)などが堅調に伸びた。中所得国ではガーナ(13.6%)が高成長をみせる一方で、南ア(3.1%)は欧州債務危機の影響による為替安や株価変動、コートジボワール(4.7%減)では大統領選挙に伴う混乱で平均成長率を下回った。

■ 対外貿易は増加傾向を維持

2011 年のサブサハラの対外貿易(IMF 推計)は、輸出が前年比 26.7%増の 3,696 億 4,900 万ドル、輸入が 23.3%増の 3,644 億 4,100 万ドルとなった。

主要相手国側の統計でみると、EU27 の 2011 年の対サブサハラ輸出は 1,037 億 2,700 万ドル(25.9%増)、輸入は 1,153 億 8,600 万ドル(41.9%増)となった。主な輸出品目は、一般機械(構成比 18.2%)、石油などの鉱物性燃料(16.0%)、電気機械(10.3%)など。輸出先は南アが最大で、次いでナイジェリア、アンゴラの順となった。主な輸入品目は、ナイジェリアやアンゴラから輸入する原油などの鉱物性燃料(49.1%)、南アなどからの貴石・貴金属(13.2%)、コートジボワールなどからのカカオ(5.6%)となった。

中国は、輸出が 562 億 9,300 万ドル(27.2%増)、輸入が 710 億 300 万ドル(26.1%増)となった。主な輸出品目は、携帯電話などの電気機械(構成比 14.9%)、コンピュータ・同部品などの一般機械(11.4%)などだった。輸入では、原油が約 6 割を占め、主にアンゴラ、スーダン、コンゴ共和国から輸入した。

米国は、輸出が 211 億 4,100 万ドル(23.5%増)、輸入が 743 億 2,200 万ドル(14.3%増)だった。主な輸出品目は、建設機械部品や自走式ブルドーザーなどの一般機械(構成比 19.4%)、乗用車などの輸送機器(16.7%)だった。輸入では、ナイジェリアやアンゴラからの原油が、約 8 割を占めた。

■ 対内投資は小売業で大型案件

UNCTAD によれば、2011 年のサブサハラの対内直接投資(ネット、フロー)は、369 億 200 万ドル(前年比 25.2%増)だった。最大の投資受け入れ国は、域内最大の産油国ナイジェリア(89 億 1,500 万ドル、46.2%増)で、続いて域内最大の経済規模を誇る南ア(58 億 700 万ドル、4.7 倍)、油田開発が進むガーナ(32 億 2,200 万ドル、27.5%増)となった。域内 2 位の産油国アンゴラは、投資引き揚げや企業間融資の返済などで 55 億 8,600 万ドルの引き

揚げ超過となった。

2011年のサブサハラの対内クロスボーダーM&A件数は、176件だった(トムソン・ロイター)。国別では、南ア(80件)、ナイジェリア(12件)、モザンビーク(11件)が上位に入った。産業別では、鉱業(42件)、ビジネス・コンサルタント・サービス(18件)、投資運用事業(12件)、石油・ガス精製(11件)、保険(11件)などとなった。大型案件では、米ウォルマートによる南ア小売り大手マスマートの株式51%の取得(21億5,400万ドル)や、中国・金川集団による南ア資源企業メレックスの買収(13億2,900万ドル)があった。

■ 対日貿易は増加するも、赤字幅が拡大

日本の通関統計をドル換算すると、2011年の日本の対サブサハラ貿易は、輸出が前年比22.5%増の107億6,700万ドル、輸入が48.4%増の155億2,100万ドルで、輸出入ともに大幅増だった。貿易赤字は前年の16億7,200万ドルから、47億5,400万ドルに拡大した。

輸出では、船舶(70.3%増)、自動車(4.2%減)、一般機械(32.0%増)の3品目で全体の約7割を占めた。国別では、南ア(12.9%増)が約4割、便宜船籍国のリベリア(70.1%増)が約3割を占めた。輸入では、原油や液化天然ガスなどの鉱物性燃料(2.8倍)が約4割を占め、次いでプラチナなどの非鉄金属(15.7%増)、鉄鉱やフェロクロムなどの金属原料(8.8%増)となった。国別では、南ア(16.4%増)が約5割を占め、発電用燃料の原油を輸入しているスーダン(62.7%増)が2位、それに続くナイジェリア(3.0倍)と赤道ギニア(3.8倍)は液化天然ガスを中心に大幅増となった。

2011年の日本の対アフリカ直接投資(財務省発表の国際収支ベースをドル換算。マグレブ諸国含む)は4億6,400万ドルで、前年の3億7,200万ドルの引き揚げ超過から一転して増加した。9割以上を南ア向けが占めた。日本政府は2008年5月の第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)で、日本からの対アフリカ民間投資を2012年にかけての5年間で34億ドルに倍増させると公約し、投資促進を図っている。投資額は順調に伸びており、目標を上回る成果が見込まれる。2013年6月には第5回アフリカ開発国際会議(TICAD V)が開催される予定で、日本とアフリカのさらなる関係強化が期待される。